

## ASH 参加報告書

群馬大学医学部附属病院 血液内科 松村郁子

この度、JALSG Young Investigator ASH Travel Award に採択していただき、初の国際学会に参加する機会が得られたことを心から感謝申し上げます。周囲の先輩医師たちが ASH に参加し、刺激を受けている姿をみて、自分も ASH に参加してみたいと思う一方で、血液内科医として勤務し、2 年弱の私には普通の診療でもまだわからないことが多く、国際学会に参加することに気後れする気持ちもありました。しかし、今回、アトランタに積もった雪を溶かしてしまうくらいの活気と熱意に溢れている ASH に参加でき、本当に良い体験になったと思っています。

教育講演を中心に参加しましたが、テーマ毎にまとまっており、短時間で多くの情報を得ることができました。PD-1 阻害剤や CAR-T、IMiDs など、免疫系に関与する治療薬がさまざまな講演で話されており、これらの治療薬の対象疾患の広がり期待を感じました。また、悪性リンパ腫の中樞神経病変や妊娠中の血液内科へのコンサルトなど、今まで自分が診療した際に苦慮したことがあるテーマもあり、とても興味深かったです。ポスター発表では、広い会場にたくさんのポスターが貼られており、多くの人で賑わっていました。学会では人と人が直接会うため、論文を読んでいるだけでは感じられない、その研究をしている人自身の存在を感じることができました。これだけ多くの方が血液という分野に興味を持ち、一生懸命に取り組んでいる様子に感銘を受け、私も血液内科に興味を持った一員としてがんばっていこうと気持ちを新たにしました。

国際学会のため、発表は全て英語であり、演者が話す内容をすらすらと理解することはできませんでしたが、講演内容に関する疾患や薬剤、作用機序等の予備知識があると、とても理解するのに役立ちました。また、スライドを写すモニターも広い会場内に複数あるため、話すスピードについていけないときには、スライドが頼りになりました。

今回は、講演やポスターなどから情報を受け取ることに精一杯でしたが、今度 ASH に参加するときには、自分で発表をして、情報を発信することを目標にがんばっていきたいと思いました。JALSG および関係者の皆様に感謝するとともに、今回の学会参加にて得た体験を忘れず、日々精進していきたいと思います。